

政策整理番号 13

評価シート(B)

対象年度	H17	作成部課室	産業経済部新産業振興課	関係部課室	産業経済部食産業・商業振興課
------	-----	-------	-------------	-------	----------------

政策番号	2 - 4 - 2	政策名	新成長産業の創出・育成
------	-----------	-----	-------------

施策番号	4	施策名	食関連産業の創出・育成
------	---	-----	-------------

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効

概ね有効

課題有

【政策評価指標達成状況から】有効

指標名:新たな機能性加工食品の売上げを計上した企業数 達成度 A

・(達成状況の背景)

従前の指標は、政策指標の見直しをこなっている。

健康志向や高齢化を反映し、新たな機能性食品に関するビジネスチャンスが広がっている。

・(達成度から見た有効性)

指標としては数が増加しており、有効である。

【県民満足度(政策)の推移から】概ね有効

・政策満足度は50点、満足度60点以上の回答者の割合は42.7%であり、それぞれの平均「51.1点」「41.9%」と同等程度であり、概ね有効と判断する。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】判定不能

・食に関する施策の対象領域が多岐、総括できるデータはない。

【総括】

・食をめぐる環境は、少子高齢化、食ニーズの多様化などにより変遷してきており、これまでの既成概念による食ビジネスを展開しても限界があり、今後は、いかに地域特性を生かした付加価値のある食品等を開発するかが成否を握っている。

・誤嚥防止のため高齢者、障害者に対する特殊な食品の開発を行い、可能な限り栄養の経口摂取期間を延ばすことが必要である。指標としても増加しており、概ね有効であると判断する。

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	中小企業創造活動促進事業(再掲)	6		
2	主	新分野・技術等開拓支援事業(再掲)	7		
3	主	食材王国みやぎ創造事業	8		
4	主	ベンチャー育成ファンド組成事業(再掲)	9		
5	重	機能性食品開発普及支援事業	10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切

概ね適切

課題有

【国、市町村、民間団体との役割分担】概ね適切

・(国)薬事法に基づく、特定保健用食品等の指定

・(県)みやぎ食の安全安心アクションプラン、FMS等で総合的な県産品の品質管理を行っている。

・(市町村)物産展等による食品の販路調達を行っている。

・(民間団体)トレーサビリティによる品質的な販売を行っている。

・本施策に係る事業群は、上記役割分担に沿って設定・実施されており県の関与は概ね適切である。

【施策目的を踏まえた事業か】概ね適切

・「食ビジネス」の概念が、一次産業からサービス業までを含むかなり大きなものとなっており、施策目的は既成概念とは一線を画する「新たな」ものの創出を目的とするものである。食材王国みやぎ創生事業での飲食店の登録事業は、全般的な底上げとして概ね適切であった。(H16年度で終了した。)

【事業間で重複や矛盾がないか】適切

・当施策としての事業に重複はなく適切である。

【社会経済情勢に適応した事業か】判定不能

・当施策領域において、社会情勢を的確に捉えるデータはない。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性)概ね適切

・乖離度が大きく、県民満足度の向上のため必要性が認められる。

【総括】

・食ビジネスは、一次産業者から個人事業者も取り組めるなどビジネスとしては身近で判りやすい反面、新規性・独自性を出すことは容易ではないが、全体的な底上げを目指すなど事業群の設定は適切であり、また県の関与も概ね適切である。

施策番号	4	施策名	食関連産業の創出・育成
------	---	-----	-------------

B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効	概ね有効	課題有
----	------	-----

<p>【施策満足度から】概ね有効 ・施策満足度は50点,満足度60点以上の回答者の割合は42.7%であり,それぞれの平均「51.1点」「39.4%」と同等程度であり,概ね有効と判断する。</p> <p>【政策評価指標達成状況から】有効 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋 ・政策評価指標の見直しを行っているが,達成は仮目標値と同等であり有効と判断する。</p> <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】判定不能 ・当該施策を網羅する社会的なデータは存在しない。</p> <p>【業績指標推移から】有効 ・食材王国みやぎ創造事業等,業績指標は増加傾向にあり,有効であると認められる。</p> <p>【成果指標推移から】判定不能 ・事業内に様々な活動が多く含まれており,総括して成果指標としても抽出できるデータはない。</p> <p>【総括】 ・新技術等の導入に当たって,研究段階や発展途上にある大学や試験研究機関等のシーズを事業化するために県が産・学とのコーディネートを行うなど主導的な立場で関与することは不可欠である。 ・さらに,本事業群は,本県内の食関連産業の振興を図るものであり,県内の食関連企業が新たな事業に取り組み,本県から新たな食の提案を行うことで,食関連企業の活性化と本県で推進している「食材王国みやぎ」の戦略推進に大きく貢献できる。 ・満足度は低調であるが,事業量と政策評価指標との関連から,政策評価指標の見直しを行っており,この事業群は,おおむね有効であると判断した。</p>
--

B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的	概ね効率的	課題有
-----	-------	-----

<p>【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】概ね効率的 ・政策評価指標の見直しを行っており,また,成果指標の事業が多様であり把握が困難であるが,概ね効率的と判断した。</p> <p>【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】判定不能 ・当該施策に関して,特定の社会情勢を捕らえるデータは存在しない。</p> <p>【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】効率的 ・事業の終期到来等があり,事業費は減少傾向にあるものの上昇しており,効率的と判断した。</p> <p>【総括】 ・満足度は低調であるものの,大学等のシーズと企業ニーズのマッチングを図るため,産業技術総合センター等と協調して取り組んでおり,政策評価指標、業績指標とも上昇しており,概ね効率的である。</p>
--

B 施策評価(総括):規則 § 6

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

<p>・県関与の必要性は十分に認められる産業領域であり,全体的な底上げを図るために様々な事業を仕組み,実行した結果を設定した指標等で捕らえた場合、有効性、効率性ともに概ね有効と認められるところであり、総括的には、概ね適切であると言える。</p>
--

対象年度	H17	作成部課室	産業経済部新産業振興課	関係部課室	産業経済部食産業・商業振興課
------	-----	-------	-------------	-------	----------------

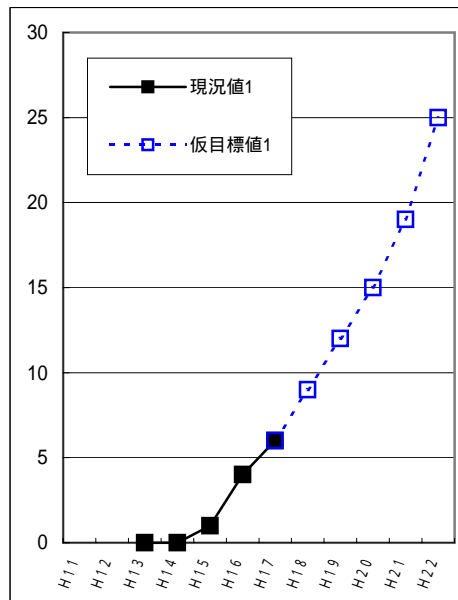
政策番号	2 - 4 - 2	政策名	新成長産業の創出・育成
------	-----------	-----	-------------

施策番号	4	施策名	食関連産業の創出・育成
------	---	-----	-------------

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標値の推移(グラフ)

政策評価指標名		単位						
新たな機能性加工食品の売上を計上した企業数		社						
目標値	難易度	H17	H22					
		-	25					
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H13			H13	H14	H15	H16	H17
現況値 (達成度判定値)	0			0	0	1	4	6
仮目標値								6
達成度								A



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・健康志向や高齢化を反映した機能性食品の開発など、今後のマーケットの拡大が見込まれる食関連ビジネスを行う企業等を育成、支援し、市場に受け入れられることにより、県内企業の競争力向上が期待できることから、その目安として当指標を選定した。(平成17年度見直し)

(3) 施策満足度の推移

年度	H17	参考:第2~4回の推移	H16	H15	H14			
施策重視度(中央値、点)A	70	施策重視度 A	77	70	72.5			
施策満足度(中央値、点)B	50	施策満足度 B	50	58.5	50			
かい離 A-B	20	かい離 A-B	27	11.5	22.5			
満足度60点以上の回答者割合(%)	42.7	満足度60点以上の回答者割合	42.1	48.0	37.9			

第5回県民満足度調査は調査票の様式を見直して実施しました。第2~4回の調査結果は第5回の調査結果と同列に扱うことができないため、参考記載としています。

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し

達成度:A
 ・食品開発にあたっては、食品産業と健康福祉産業との研究開発等の取組みがなされ、新たな加工技術等の活用やデザインや時代の要請商品コンセプトによる付加価値・機能のある食品開発の取組みがなされている。
 ・そのような食品のうち、機能性に関して新たな価値を付加した食品の商品化の支援や商品の表彰を行っている。
 ・今後も、毎年3件程度の増加を見込んでいる。

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

存続

要検討

【施策の有効性を評価する上で適切な指標か】
 ・中心となっていた食材王国みやぎ創造事業がH16で終了したことから、施策指標としては大きく変化することとなるとともに、事業費が極めて少額なものとなることから指標の見直しを行った。
 ・新技術による食品開発や食事におけるホスピタリティ等の付加価値の提供による需要の拡大など、県の育成・支援による今後の食ビジネス分野への進出する企業の累積値を目標値として見直し設定したものであり、測定尺度として妥当なものであることから継続する。

施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 13

対象年度	H17	作成部課室	産業経済部新産業振興課	関係部課室	産業経済部食産業・商業振興課
政策番号	2 - 4 - 2	政策名	新成長産業の創出・育成		
施策番号	4	施策名	食関連産業の創出・育成		

C - 1 評価結果から抽出される課題と対応策

【政策評価】 施策群設定の妥当性, 施策群の有効性
 ・政策評価指標の結果からも, これまでの取り組みにより, 県内企業における食ビジネスの全体的底上げが図られ, 施策群は概ね有効であると認められるものの, それが新たな産業創出にまでは, 結びついていない状況にある。そのため, 東北大学等のシーズを活用した具体的な産業創出を目的とした施策の展開が必要である。

【施策評価】 事業群設定の妥当性, 事業群の有効性, 効率性
 ・当施策の事業群の中心であった「みやぎ食材王国創造事業」は, 全般的な食関連産業の振興には一定の成果があったが, 今後は県内に十分なシーズがあり次世代食品とし期待される「機能性食品」に重点的に取り組み, 具体的な産業創出に結びつける必要がある。

C - 2 施策・事業の方向性

施策の次年度(H19年度)の方向性とその説明

方向性	拡充	維持	縮小
-----	-----------	----	----

【方向性の理由】
 ・食関連産業分野は, 医療福祉分野, 環境関連分野などと共に, 今後の成長産業に位置づけられており, 本県の産業分野として発展させるためには県内企業による価値を付加した食品開発への支援などに取り組んでいくことが必要である。

【次年度の方向性】
 ・機能性食品に係る抗糖化食品等の学のシーズに基づく商品化に向けた展開等の展開や, 開発・商品化された機能性食品の普及に向けて, 重点的に取り組む。

主要事業・重点事業の次年度(H19年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名	H17決算見込額(千円)	方向性	方向性に関する説明
1	主	中小企業創造活動促進事業	0	廃止	平成16年度で根拠法廃止
2	主	新分野・技術等開拓支援事業	29,711	廃止	平成17年度で事業終了
3	主	食材王国みやぎ創造事業	0	廃止	平成16年度で事業終了
4	主	ベンチャー育成ファンド組成事業	0	維持	平成14, 15年度において組成し, 原則10年間の運用期間で投資を実行する。
5	重	機能性食品開発普及事業	900	拡充	平成17年度新規。抗糖化食品の基礎研究を受け, 糖尿病予防食品への技術移転を進める。
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
		合計	30,611		